

商店街も活況

涼求め ミストに集合

かき氷や冷感グッズ 販売好調

仙台市青葉区のアーケード街を主会場に開幕した仙台七夕まつりは初日の6日、分厚い雲に時折強い雨が降るあいにくの滑り出し。気温30度前後の蒸し暑さに観光客らは涼を求め、冷えた飲食物や冷感グッズに手を伸ばした。

雨がちらつく正午ごろ、一番町3丁目の藤崎ファーストタワー館前に子どもたちが集まってきた。お目当てはミストを発生させる大型冷風機。主催の協賛会が熱中症対策として市中心部の2カ所に設置した。

子どもたちは髪や肌に水滴を付けて大はしゃぎ。家族5人で訪れた宇都宮市の小学2年生貞弘華慧さん(7)は「ひしよぬれになったけど、涼しくて気持ちがいい」と笑みを浮かべた。

氷菓は飛ぶように売れた。市内でビジネスホテルを展開する松月産業は、中央2丁目の「プレミアムグリーンプラズ」前でかき氷を販売。多い時で20人以上の行列ができた。昨年は期間中に5000個以上を売り上げた。同社広報部の伊藤健二マネジャー(54)は「悪天候にもかかわらず



ミストが発生する大型冷風機の前に集まる子どもたち

ず思ったよりも人出は多い」と胸をなで下ろした。

一時的に晴れ間が広がった午後2時ごろ、一番町3丁目の藤崎本館前では、出店に「キンキンに冷えたもの、ご用意ございます!」のポップ。販売するのは首にはめる冷感リングだ。購入した愛知県知多市のパート従業員堀川保子さん(65)は「ソクソクするくらい冷たい」と笑顔を見せた。

藤崎の丹尾浩幸さん(60)は「開幕に向けて天気も回復していくようで、さらに売れ行きは伸びるはずだ」と期待した。

(伊藤卓哉)